

■英語交流活動(外国語活動)

室蘭市海陽小学校(和野忠康校長、501人)で小・高連携を生かした活動が活発に行われています。室蘭・海星学院高校(香川謙二校長)の生徒や室蘭栄高校(高桑純校長)の生徒が同小を訪れ、小学生と交流を深めながら勉強の楽しさを教えています。地域参加型の学校「コミュニケーションスクール」を目指している同小は地域の高校との連携にも積極的に活動中。和野校長は「学習支援ボランティアとして、さまざまな専門家を招いて授業を展開しています。地域総ぐるみで教育に励み、心豊かな子どもたちを育てていきたい」と意気込んでいます。小学生と高校生が楽しく勉強をしている様子を紹介します。(石川綾子)

海陽 活発小・高連携



知っている単語をつなげながら、行きたい国の特徴や好きな物を発表する児童ら



まずは、緊張をほぐすためのアイスブレイク。英語であいさつを交わしたり、自己紹介をしました

2011年(平成23年)に5、6年生の外国語活動が必須になって以来、海星学院高を訪れた留学生が同小を訪問し、講師を務めることはあったが、高校生が講師を務めるのは初めて。対象は6年生約100人、海星学院高の生徒約10人が参加しました。

まずは緊張をほぐすために「ハロー」とあいさつを交わし、英語で自己紹介。外国に興味・関心を持ってもらおう

と、旅行会社のカウンターに見立てて授業を進めました。

児童らは自分の行ってみたい国の特徴や好きな物を英語で発表しました。高校生は「どこの国に行きたい?」「その国で何がしたい?」などとインタビュー。児童らは「ケニアに行って動物を見たい」「カナダでオーロラを見たい」など単語をつなげながら答えました。

同小6年の常盤百花さんは「高校生のお兄さん、お姉さんが優しく教えてくれたのでとても楽しかった」と話し、同高1年の福岡葉菜さんは「将来、英語の先生になりたいので参加しました。教えるのは難しかったけれど、小学生も楽しんで英語を話してくれていたのがよかった」と教えることの楽しさを実感していました。